



編集と発行

金木町企画室

青森県北津軽郡金木町  
大字金木字朝日山323  
電話☎2111(代表)内線40

ようこそ金木へ——角巻き姿で「津軽の冬」満喫



# 地吹雪体験の旅



雪けむりの中を

馬ソリの馬が

目を細め、

シヤンシヤンと鳴る

鈴の音を

津軽の大地に

響かせながら

駆けてゆく……

地吹雪体験。

(10〜11ページに続く)

主な内容

- 12月定例町議会……………2-4
- 合同厄払い……………5
- 岩手県都南村の農家来町……………5
- 待望の3施設完成……………6
- 働く少年を助ます会……………7
- 金木高留学生メガンさん卒業……………7
- サンタ・フェスティバル'88……………8
- 14日会・クリスマスプレゼント……………8
- 「縄のなり方」を継承する……………9
- 街路灯寄贈される……………9
- 故大橋忠雄氏に「従六位」……………9
- 地吹雪体験ツアー第1陣来町……………10-11
- 「平成」特集……………12
- 「独占スポーツ・かなざ」コーナー……………13
- 第3回3世代交流ゲートボール大会……………14
- 金木病院カルテ……………14
- 「税の豆知識」と「公証制度」……………15
- 戸籍の窓……………16

人口と世帯

	1月末現在	前年同月比
男	6,540人	-117人
女	7,106人	-108人
計	13,646人	-225人
世帯数	3,922	-1人

# 第二百二十六回 十二月定例町議会

昭和六十三年十二月定例町議会は去る十二月三日招集され、会期を五日間と決定し、昭和六十三年度、一般会計補正予算案をはじめとする議案十六件及び、報告二件を原案通り可決、閉会しました。

## 可決された案件

- 一、昭和六十三年年度金木町一般会計補正予算(第六号)の件
- 二、昭和六十三年年度金木町国民健康保険特別会計(事業勘定)補正予算(第三号)の件
- 三、昭和六十三年年度金木町水道事業会計補正予算(第二号)の件
- 四、金木町職員の勤務時間に関する条例の一部を改正する条例の件

水稲種子更新補助金  
180万円、中体連派遣費  
補助金 150万円など  
一般会計 2,284万円補正する

昭和63年度一般会計予算総額

# 30億841万円に

- 五、金木町財政調整積立金条例の一部を改正する条例の件
- 六、金木町減債基金条例の一部を改正する条例の件
- 七、神原防災コミュニティセンター設置条例の件
- 八、金木東部地区コミュニティセンター設置条例の件
- 九、金木町営住宅使用料及び徴収条例の一部を改正する条例の件
- 十、金木町固定資産評価審査委員会委員選任について同意を求める件
- 十一、金木町教育委員会委員の任命について同意を求める件
- 十二、人権擁護委員推せんにつき意見を求める件①
- 十三、人権擁護委員推せんにつき意見を求める件②
- 十四、人権擁護委員推せんにつき意見を求める件③
- 十五、昭和六十三年年度金木町一般会計補正予算(第七号)の件
- 十六、昭和六十三年年度金木町国民健康保険特別会計(事業勘定)補正予算(第四号)の件
- 十七、金木町職員給与に関する条例の一部を改正する条例の件
- 十八、専決処分した事項の報告及び承認を求める件(昭和六十三年年度金木町水道事業会計補正予算(第一号))
- 十九、専決処分した事項の報告及び承認を求める件(昭和六十三年年度金木町一般会計補正予算(第五号))



▲12月定例町議会風景

### 農林商工振興と 冷害対策について

福山初枝議員

質問① 天災融資法の貸付配分はいつ頃か。  
質問② 自作農維持資金の貸付配分はいつ頃か。  
質問③ 冷害対策本部設置

一般質問事項について、各議員の質問趣旨並びに答弁の概要を次に揚げます。

後の経過を説明願いたい。  
質問④ 農業共済金はいつ農家に支払われるのか。  
質問⑤ 町活性化のための起爆剤的施策を伺いたい。  
答弁①、② 中谷産業課長 内示が十二月九日から十二日の間と予想され、実際本人に支払われる融資額は、三月中旬頃と予想される。  
答弁③ 中谷産業課長 七月二十七日の冷害対策本部設置に基づいて、同二十九日今後の対策等について協議。八月二日、第一回目の理事會開催。同十一日、農林商工常任委員会で検討会。同二十日、出穂状況を普及所と地域的に調査。同三十一日から九月一日にかけて、不稔調査を実施。同十六日、被害程度が大きかった時田沢部、藤枝、川倉を中心に不稔調査を実施した結果、被害の大きい所では五〇%、藤枝、川倉地区においては三七・八%の被害があった。同二十日幹事會開催。同二十一日、県知事、共済連、青森統計事務所へ陳情。十月十四日には、大字毎の被害面積調査実施。同十五日には、共済組合と被害状況

について打合せ。同二十五日、被害農家の調査報告、同三十一日、天災融資法が発動された場合の対応について協議。十一月十六日、救農土木についての説明会。同十九日には、救農者への求労働申込みのチラシを配布。同二十五日に、求労働申込み者四十三名を決定。同二十八日には、求労働作業日程と場所割当等の説明会を開催。同二十九日、実質的救農作業に入った。以上であります。

**答弁④中谷産業課長** 共済金額が判明するのが、十二月十三日から十五日頃。被災者に支払われるのが、二十日から二十五日の間という計画で進められているようである。

**答弁⑤町長** 町活性化施策であるが、まず第一に働く場の多い町づくりである。特に男子雇用型企業誘致のために、今後も積極的に国・県に陳情していきたいと考えている。

第二に、県外からの観光客を町へ誘致することである。そのためには素通り観光ではなく「滞在観光」が

大事である。その意味で宿泊施設の整備が急務であり、大型ホテルの誘致も必要と考える。

また地域的特性を生かした地場産業の掘り起こし対策に、日本三大美林のヒバを活用した町づくりも必要と考える。以上述べたことを積極的に推進するために、商工会、農協等各機関と一体となって努力する。

**再質問** 地元資本を導入して、第三セクター方式でやる考えはないか。

**答弁・町長** 今後は町の資本を導入して、町民がこれに参加する第三セクター的なものを考えてみたい。



**関連質問**

**吉田米逸議員** 天融法や自作農維持資金が三月中旬頃ということだが、農家が支払いに困窮している状況であるので、早める運動を起す考えはないか。早めることができないとすれば、町税等延納の考えはないか。

**答弁・町長** 農林商工常任委員会と早急に検討し、陳情効果があるとすれば実施したい。町税等延納の件については、その措置がとられる。

**町政全般について**

吉崎正光議員

**質問①** 男子型企業誘致対策は、具体的にどう進んでいるか。

**質問②** 今年度の政府売渡米数量、等級、冷害に対する損失などはどのようになっているか。

**質問③** 農家の嫁不足が深刻な問題となっているが、町ではどのような対策を考えているか。

**質問④** 学童や生徒が年々少なくなっているが、現在の統計の人数はいくらか。  
**質問⑤** 冷害による救農土

木の規模はどの位か。  
**質問⑥** ばんえい競馬対策はその後どのようになっているのか。

**質問⑦** 芦野公園内訴訟問題の現状と見通しはどうか。

**質問⑧** 町内道路舗装の現状と今後の計画はどのようになっているか。

**質問⑨** 屏風山内真部線の道路進捗状況はどのようになっているか。

**答弁①町長** 国・県へ絶えず陳情している状況下である。将来的には工業団地の

造りが適当か否か、その他今後担当の委員会と検討して進めたい。

**答弁②中谷産業課長** 前年度十三万二千六百九十三俵に対し、今年度は十一月二十九日現在十一万六千九百四十七俵で限度数量に対する出荷率は92%となっている。等級別にみると前年度は、一等米が92%、二等米が7.8%、三等米が0.2%であったが、今年度は一等米が19%、二等米が76%などと同前年度と全く逆になった。

これに対する減収量は前年度に比較すると一万二千三百十七俵の減となり、六十三

年度の平均単価に置き換えしてみると、二億一千七百万円余りの減収となった。また、品質低下に対する

損出は三千二百万円余りで、合わせて二億五千万円余りの損出と推定される。

それから、米価引き下げに対する損出九千二百万円余り。転作による損出が三千万円余り、多用途米増に

対する損出が一千万円余り、合わせて冷害に対する損出合計額は、三億八千三百万円余りとなった。

**答弁③町長** これについては、フィリピン女性と結婚したい方を三回ほど募集したが、外国人ということで希望者が少なかった。「魅力ある農業」であれば嫁不足問題も解消されると思うので、今後もそのために努力する。

**答弁④近藤教育長** 小・中学校の児童生徒数は六十三年度一千六百三十六名、米年度一千六百七名で二十二年の減となるようである。

**答弁⑤町長** 産業関係で二百七十万円、建設関係で二百二十万円の合わせて五百

希望者も四十七人あったが、低賃金のため出稼ぎした方がいいという状況下であった。

**答弁⑥町長** 最近また二社ほど来庁している。町活性化のために、この件については今後も努力する。

**答弁⑦町長** 県立自然公園の一角としては、町ではどうしても必要な場所である。このため、町としては土地交換あるいは取得ということでも今後も努力する。

**答弁⑧町長** 未舗装については指摘をうけるが、何しろ膨大な延長量である。しかし、町民に生活道路としての不便をかけないためにも、できるだけ短年で舗装されるよう努力する。

また、今後の計画としては旧金木中から大東ヶ丘までの芦野線を、沿線所有者と折衝しながら是非舗装したいと考えている。

**答弁⑨木村建設課長** 屏風山内真部線は、今年度二百四十メートル（七千四百万円）、来年度二百六十メートル（八千万円）で工事が終了し、総延長四千六百メ

ートルである。

メートルである。

農業と核燃サイクルなどについて

中村政徳議員

質問① 最近世論を賑わしている、六ヶ所「核燃サイクル」設置に対する町長の意見を伺いたい。

質問② 国では現在、教壇に立たない小・中学校事務職員、栄養職員給与を関係市町村で負担すべきという、いわゆる義務教育費国庫負担制度の改正を打ち出しているが、これに対する町長の意見を伺いたい。

質問③ 六ヶ所村に世界初の試みが建設されようとしているようであるが、「安全」については不確かだ断言できないと思う。しかし、現存エネルギーに替わる代替エネルギーは確かに必要なのだから、今後共町民の意向を踏まえながら、この問題については意志表示したい。

質問④ 町長 関係市町村に負担してもらおうという、国の改正には反対である。県議会で決議されたのと同様に、国庫負担を念願している。

金木病院の運営と財政問題などについて

沢田 茂議員

質問① 昭和六十二年度金木病院未処理欠損金が三億七千万円、昭和六十三年度分も加えると五億円近くになると予想される。このような現状下で、町からの一般会計繰出金を大幅に減額したのはなぜか。

質問② 今後の金木病院経営について伺いたい。

質問③ 金木病院と同様、多額の維持管理費を費やしている町営牧場を六十三年度で閉鎖する考えはないか。

質問④ 県が発注した冷害による救農土木事業で、河川の稚木伐採があったが、町ではこの事業に対してどのように対処したのか。

質問⑤ 厳しい水田農業を乗り切るために、銘柄米確保の体制づくりをする考えはないか。

質問⑥ 町が管理・運営している諸施設で、利用度が低い施設を廃止する考えはないか。

質問⑦ 自然休養村管理センターの円滑な活用を今後どのようにするのか、

質問⑧ 小田川河川改修事業で、嘉瀬小栗崎地区の橋梁かけ替え箇所があるが、現在ある農道と真つすぐに結ぶための陳情を県にできないか。

質問⑨ お話された欠損金は、減価償却費が含まれた金額であり、純然たる欠損金は四千二百四十七万円である。また、地方公営企業繰出金は法律的に元利償還金の三分の二に相当する額が基準となっている。金木町、中里町両町合わせて毎年一億七千万円もの繰出をしているのであるから、この範囲内で経営努力するよう念願する。今後は病院議会にも検討してもらいたい。

質問⑩ 牧場建設にかかる償還金返済は、六十七年までであるが、早急に担当課と相談し御指摘の方向で進めていきたい。

質問⑪ 木村建設課長 金木橋下流から旧十川までの間を救農土木事業として、被害農家十五名（事業費二百二十万円）で実施した。

質問⑫ 町長 指摘の通り「売れる米」でなくては、将来の水田農業は難しいと思われる。しかし、町独自の銘柄米開発は困難で、県ぐるみでの取り組みに期待したい。

質問⑬ 利用度が低い補助事業で建設されたものは、償還終了後早急にとりやめたいと考えている。

質問⑭ 川倉の河原と結びつけた、観光客の宿泊施設として有効利用できるものか考えている。

質問⑮ 町道への寄付採納があるが、町が維持管理費のかからないために側溝・舗装等の整備がされていることが原則である。この件については土木常任委員会でも了解済である。

質問⑯ 町長 現地の調査をし、ご要望に応えたいと考えている。

質問⑰ 患者が一人もいない金木病院結核病棟（二十床）を赤字解消のために、転用する考えはないか。

質問⑱ 患者が増えていないのに、東洋建物管理（株）への金木病院業務委託費が委託当初に比べて一倍増（三千四百万円）にもなっているが、これはどうしてか。

質問⑳ 今後の冷害に対して、今から共済金等に即応できる専門部会の設置が必要と思われるかどうか。

質問㉑ 町道認定の件であるが、事実何十年前前から道路として使用し、町で砂利等を敷いている所もそうなのか。

質問㉒ 院長・事務長にはこの件を話したことがあり、私自身は利用度の高い病棟転用への意志はある。いずれにしても重要な問題で、再び病院議会に諮ってみたいと考えている。

質問㉓ 現状の病院収支を考えた場合、職員を本採用するよりは人件費削減のメリットがあり、病院議会からも必要最低限の人員配置で運営するよう要望されている。

質問㉔ 町長 早々に設置したいと考えている。

質問㉕ 町長 この件については、土木・総務企画常任委員会と検討し対処する。

むり・むだ・みえのない豊かな生活を!!

金木町新生活運動推進協議会では、次のとおり日常生活や冠婚葬祭等の合理化に努めていますので、皆さんのご理解とご協力をお願いします。

■冠婚の部

会費	8,000円以内
引出物	廃止
お色直し	3回以内
結納金	50万円以内
披露宴時間	3時間程度

■葬祭の部

法要	8,000円の会費制 引出物は廃止
香典	一般は1,000円
香典返し	礼状のみにする
通夜の接待	お茶菓子程度
お布施	一人5万円以内
花輪	花輪ポスターにする

■その他

病氣見舞	2,000円
見舞返し	礼状のみにする
お祝い	2,000円
餞別	廃止する
訪問販売	慎重に対処する



▲金木中央公民館で行われた「合同厄払い」

## 男42歳一女33歳 厄年147人…大厄祓う 合同厄払い開催

今年大厄を迎えた男女が去る一月四日、中央公民館で「合同厄払い」を行い、一年間の降りかかる厄難を祓い落としました。

厄年は、男二十五歳・四十二歳・六十歳で、女が十九歳と三十三歳となっていますが、人の一生のうちで厄に逢う恐れが最も多いとされる男四十二歳、女三十三歳を「大厄」と称し、数え年で昔から厄払いの儀式

を実施しています。

金木町では、十八年程前から合同で厄払いを実施しており、今年は、昭和二十三年四月二日と二十四年四月一日までに生まれた男性と昭和三十三年四月二日と三十三年四月一日までに生まれた女性が対象となり、合わせて一四七人が参加して行なわれました。

式は、男一万二千元、女一万円の会費制で発起人らが主催して行なわれたもので、お祓いを受けたあとと一人一人の名前が織り折まれた祝詞を神主が祭壇に奏上、男女の各代表が玉串を奉典し、おごそかに厄難を祓い落としていました。

このあと、祝宴に移り、金本正人発起人代表が「社会の中堅として一人一人が自覚し、町発展のために頑張っている」と挨拶。続いて、来賓として出席した大橋町長が「人生で最も働き盛りで大事な時期にある。健康に留意され、人生に悔いのないよう今後各界での活躍をお祈りします」と無事除厄した大厄者たちを激励しました。



▲活発な質問が続出した「転作先進地研修」

## 全国屈指の転作推進地に学べー。 岩手県 都南村 の農家ら一行来町する

今や全国でも屈指の転作推進地として知られたるほどまでになった金木町。

この推進地に少しでも岩手県都南村の農家、役職員ら一行四十五名が来町し、役場会議室で先進地研修を行った。

研修では、当金木町産業課の担当者より「金木町の転作概況」などが説明され

その後、質疑応答に移り「転作団地の規模は?」「大豆を伴付した場合の収量は?」などと活発な質問が続出。転作に今後どう取り組んでいったらいいのか、来町した農家らも真剣そのものでした。

昨年だけでも県内外から十三団体来町

我金木町には、昨年だけでも県内外から十三団体(延べ四百人余り)が来町。

このように県内外から視察団が来町する理由には「金木方式」と呼ばれる独特の転作方式が樹立されているからだ。それは、昭和五十六年になつては場整備がほぼ完了したこと、国の転作奨励補助金引き下げがあつたため、従前のよ

うな転作では対抗できなくなった経緯があつた。このため町産業課が中心となり、農家、関係機関との打合せ等を当時二月間で六十数回開催するなど、積極的に推進した結果、農家の同意を得て次の方式が樹立され現在に至っているのである。

高収益作物導入が今後の最大課題

①一年毎のプロックローテーション方式(水稲↓大豆↓水稲)による大型団地の形成②転作営農集団による機械化一貫体系共同作業③交換耕作の斡旋④互助方式の導入などである。しかし、転作面積の増加・転作助成金の引き下げ・土地改良賦課金の負担増等により稲作農業は益々厳しい状況下におかれることが予想されるため、今後は大豆、小麦を中心とした単収の増大と収益性の高い作物の導入を推進し、農業所得の向上を図ることが最大の課題といえる。

# 総額八千五百万円余り投じ

## 地区住民、生徒待望の

# 三施設完成する!!

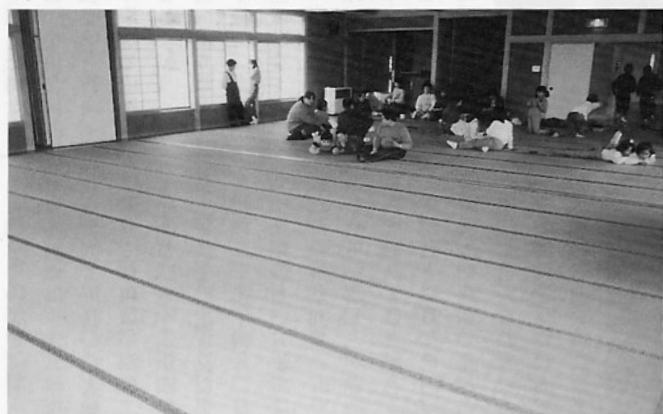
このほど、待望の「金木東部地区コミュニティセンター」「金木中学校柔剣道場」「神原防災コミュニティセンター」の三施設がそれぞれ完成した。

金木東部地区コミュニティセンターは、昨年八月から建設を進めていたもので、建築面積約四三八㎡(約百三十三坪)、総工費四千六百三十一万円(附帯工事費含んだ額)で完成。建設地は、金木町昭和町地区にある溜池を大蔵省から払い下げを受けて、埋め立て整

備したものである。この施設は、昭和六十三年度自治宝くじ助成事業で県内唯一、二千万円の助成金を受けて建設されたもので、今後は「地域コミュニティ活動」に大いに利用されることとなります。



昭和町地区(金木)に完成した「金木東部地区コミュニティセンター」



80畳もある広々とした大広間

### 使用料及び使用時間

区分	使用時間	9時～17時	17時～21時
		大会広間	1,000円
礼法室	300円	200円	
農産加工研修室	600円	400円	
わらわら工品研修室	300円	200円	

※但し、地域のコミュニティ活動のために利用される場合は無料となります。

施設の利用申込みについては、金木東部地区(山道町、昭和町、美晴町)の三町内で組織する同センター管理運営委員会(米塚勝春会長 ☎52-4304)へ町で委託していますので、こちらへ申込みして下さい。

他町内の方でも利用できます。

また、金木中学校柔剣道は昨年八月から約四カ月間かけて完成したもので、建築面積三五〇㎡(約百六坪)、総工費三千二百九十八万円。道場内にはシャワー室、更衣室、脱衣所、用具室などが設けられた立派なものが設けられた立派なものである。



校舎隣りに完成した「金木中学校柔剣道場」



神原地区に完成した「神原防災コミュニティセンター」

現在、金木中柔道部には女子部員三人を含んだ三十三人の部員がいますが、おととしは「西北五中学校柔道大会」で団体優勝、昨年は同大会個人戦女子の部で優勝するなど、すばらしい活躍ぶりが目立っています。

「道場が完成したことで、すでに女子入部希望者が殺倒しており、今春からは女子部員が増えそうです」と、担当の中井先生もとても喜んでいました。

一方、神原防災コミュニティセンターは「防災まち

づくり事業」の一環として建設されたもので、建築面積八三㎡(約二十五坪)、総工費六百七十五万円(造成費含む)で完成。今後は神原地区火災発生時にける速やかなポンプの運搬、防災意識向上に役立つこととなります。

またこの施設は、同地区コミュニティ活動の場としても利用できます。利用申込みは神原・秋元繁雄宅(☎52-3036、53-3241)へ。町で同氏へ管理運営を委託しています。

# 勉学と両立で頑張っています。

## 「第二回「働く少年を励ます会」開催」

新聞・牛乳配達をしながら頑張っている小・中・高校生を激励する「働く少年を励ます会」が去る十二月二十六日、役場大会議室で開かれた。

この会は、金木町と金木町働く少年のための基金運

営委員会（沢田茂会長）が主催して行なっているもので、今年で第二回目となった。

励ます会では、大橋町長、沢田会長が「寒い中大変な苦労様です。今後も健康に留意され、勉学と両立でき

るよう頑張ってください。」などと挨拶。引き続き、近藤教育長が激励のことばを述べた。

このあと、この日出席した四十四人を代表して金木南中三年・原田豊明君へ図書券が沢田会長から贈呈。また、北谷金木中校長が

「働くことの尊さ」と題して記念講演をし、「皆さんが配達してくれる新聞を見て人々は世の中の情報を得ている。そういう意味では、とても大事な役割をしているのだから、勉強と両立した「自覚」と「誇り」を持つてほしい」と力強く激励した。

現在、金木町内では七十四名の少年たちが新聞、牛乳配達をしながら勉強と両立で頑張っています。配達に来たら「苦労さま」と一声かけてあげるようにしたいですね。



44人が出席して行なわれた「働く少年を励ます会」

# 金木町の皆さん一年間お世話になりました。

## 金木高留學生 メガンさん卒業する

### 「雪景色」に感動

昨年十一月号でご紹介したオーストラリア・シドニーからの交換留學生メガン・ルイスさん（二〇）が、一年間にわたる金木高校での留学生生活を終え、去る一月十二日、たくさんの思い出を胸に帰国した。

十二月二十三日行なわれた同校卒業では、卒業証書

のほかに大好きな「日本人形」も贈呈され大喜び。

「あつという間の一年でしたが、金木町の皆さんにはお世話になりました。ほとんど話せなかった日本語をマスターできたこと、友達がたくさんできたこと、はじめて見た「雪景色」に感動したことなど思い出がいっぱいです。」と、立派な日本語で淡々と思い出を語ってくれた。

### 日本語生かす 仕事したい

帰国後は、大学に入り観光・レジャー産業について学ぶ予定です。「今、オーストラリアと日本とは交流がとて盛ん。大学を卒業したら、日本語を生かして通訳か観光関係の仕事をしたい。」

と、将来の夢も。

## レター！下さい

シドニーは、人口四百万人の大都市で、金木町とは格段の差があるが「国際的視野に立って、異文化を理解し合うためには是非私に手紙下さい。返事は必ず出します。」と最後に話していたのがとても印象的だった。国際交流のためにも、機会をみて是非出してあげたいものです。メガンさんの住所は次のとおりです。

### レター待っています

Meghan Louise Butcher  
11 My oora Road  
Terrey Hills 2084  
Sydney Australia



卒業証書と大好きな日本人形を贈られ大喜びのメガンさん



たくさんの子供たちで賑わった  
芦野公園内特設会場



寒いせいか「ストーブ列車」も大好評



若さあふれる五所川原RAジャズ  
ダンス・スタジオのギャルたち



「ポニー乗り放題」で子どもたちも大喜び

サンタの  
おじさん  
ありがとう!

# 子どもたちに 大きな夢を! 夢の贈り物を!

## 「サンタ・フェスティバル'88」

### & 十四日会によるクリスマス・プレゼント

サンタハウス実行委員会主催による「サンタ・フェスティバル'88」が去る十二月十七、十八日の二日間、芦野公園内特設会場でにぎやかに行なわれた。

この催しは、同委員会「サンタ・プロジェクト」の中の一環として行なわれたもので、金木郵便局内への「サンタ文庫」設置に始まり「サンタの小箱小包便」「サンタ列車」の運行など多彩な催しを繰り広げてきた締めくくり行事。この日は、厳しい寒さの

なか、二日間約六百人の子供たちが元気に集まった。夕やみの迫る午後四時過ぎ大橋町長が「良い子の皆さん、きょうはサンタクロースと楽しく遊んで下さい」とあいさつ。その後、五所川原RAジャズダンススタジオの人たちによるダンスでにぎやかに開幕。

子供たちが特製のクリスマスツリーの下で「赤鼻のトナカイ」などを歌う中、金木高校へ留学中のメガンさん扮する「女性サンタ」が登場。にこやかに子供たちと握手を交わしながら、プレゼントを配った。会場ではポニーの乗り放題や、ストーブ列車の開放なども同時に行なわれ、子供たちの歓声があたりに響きわたっていた。

また、去る十二月十四日には、保育所や児童館にサンタクロースのおじさんたちが訪れ、子供たちにひと足早いクリスマスプレゼントを贈った。



25年間続けられている「14日会々員によるクリスマス・プレゼント」